

校長室から

やりぬく挑戦

今年の角山大運動会は、3年ぶりにスポーツ協会（旧角山学区体育協会）との共同開催でした。昨年までは学校だけの開催で、地域の方もスポーツ協会の方もいない、PTA種目もありませんでした。4月になって種目やプログラムの内容を大急ぎですり合わせ、準備を進め、児童は本番に向け実質5月から練習をスタートしました。わずか3週間で仕上げてきた演技。

迎えた当日。やはり地域の方がおられる分、拍手も多いし、にぎやかさが違います。多くの方が温かく見てくださっているというほどよい緊張と応援の大きな拍手によって本番で児童は力を発揮しました。

そして今年で最後になる6年生9名は、種目の準備・片付け、開・閉会式の言葉、ラジオ体操の模範、リレーのアンカー、平和への祈りを込めた表現のあいさつなどピシッと締めてくれました。

また、玉入れや角山大リレーには、地域の大人と一緒に参加しました。学校だけでは用意できない舞台を地域の方と一緒につくることができましたと思います。

種目準備の間や閉会式に、トコトコと運動場や朝礼台の上に出て来て、手を振って愛想を振りまいてくれたちびっ子応援団もこの角山大運動会では欠かせません。

お天気やコロナの心配をしながらの大家族のようなごやかな運動会を児童と地域の力でやり遂げることができました。本当に応援ありがとうございました。



写真は6月16日のものですが、靴を揃える週間が終わっても意識されています。

くつをそろえる週間（習慣）

5月24日から靴箱の靴をそろえることを週目標にしました。そして毎日の様子を写真にとって掲示しました。すると翌日はさすが6年生ピターッと揃（そろ）っていました。

次の日は4年生、そしてその次の日は2年生とだんだんに揃った学年が広がっていくのが面白いです。金曜日にはすべての学年が揃いました。

並び方が違う靴に注目していると「揃っていて気持ちいいでしょう」「左足がもうちょっと揃ってくれるといいのに」「かかとを合わせてくれればいいのに」と一つ一つの靴が、何か声を出しているように見えてくるのです。

使う人の持ち物にも魂が乗り移っているかのようです。